

「地方創生カレッジ in 津軽」 ワークショップ等の成果のポイント

1. 地域課題・テーマ

- ・DMOについての基本的な理解をそろえること。
- ・津軽圏域14市町村の垣根を取り払い相互理解を深めること。
- ・津軽圏域の観光を推進する中核となる若手人材を育成すること。

2. 現状と問題点

- (1)津軽圏域(青森県西北地域・中南地域の14市町村)では、今後、生産年齢人口の減少ペースが全国より早く進行すると推計されており、減少に歯止めをかけるべく、観光を通じた交流・滞在人口の増加とそれともなう消費の拡大、さらには新規雇用の創出が求められている。
- (2)津軽圏域には弘前公園の桜やねぷたまつり、津軽塗、津軽三味線、白神山地など全国的に知名度の高い観光資源があるにも関わらず、観光入込客数は2015年11,844千人、2018年は11,808千人と横ばい、年によっては減少傾向を示している。本エリアでは豊富な資源がありながら、十分に活用できていないのではないかと。例えば、多様化した個人の趣味、嗜好にあった津軽圏域ならではの観光コンテンツを提供できていないのではないかと。
- (3)これらの課題を解決するべく、2020年4月に津軽圏域の14市町村をマネジメントエリアとする(仮称)津軽圏域DMO(現【クラン・ピオニー津軽】)を設立することとなったが、DMOについての理解が曖昧であり、DMO設立以降、スムーズな合意形成や事業実施のためには、DMOについて共通した理解を持つことやエリア内の市町村同士の相互理解が重要である。また、津軽圏域の観光を積極的に推進しリーダーとなるような「中核人材」も必要である。

3. 目指すべき方向性・将来像と実現に向けた具体的施策

- (1)今回の研修を通じ継続することの重要性が認識された。DMO設立準備事務局では、次年度以降、14市町村各々の観光に関する情報、DMOの情報を行政や民間事業者が共有できる体制を構築し連携を深める。また、研修参加者や域内事業者を母体としてDMO内にテーマ別のワーキンググループを組成し、研修を通じて把握した課題や議論を継続して取り扱い、結果をDMOの施策立案に活用する。このような事業を通じて事業を積極的に推進しかつ実践的な観光人材を育成する。
- (2)津軽圏域には施策立案に必要とするデータが圧倒的に不足していることが判明したため、まずは圏域全体での来訪者調査等を企画し、DMOのKPIや来訪の目的、訪問箇所などを調査し、来訪者像を明らかにする。
- (3)コンセプトワークでは、「津軽らしさ」=「豊かな自然」という方向性が導かれたが、単に、「自然」というのではなく、それが生活の中にもどのような恵みを与えて根付き津軽独特の文化を築いているか(方言、津軽三味線、宵宮(よみや)など)、外部の目・若者の目などいれて徹底的に議論・追及する。また、議論と並行して「津軽らしさ」を体感できるスポットを実査し、「温泉」「食」「農泊」などのプランの核となるテーマ、素材を見つける。

4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき(官民連携、人材交流の効果等)

- ・議論を通じて、圏域内の様々な人や組織について相互理解が深まり一体感が生まれると共に、今後の方向性等の共通理解を得ることができた。
- ・ワークでは、一人では考えつかない多様な意見、アイデアが生まれる、といった気づきがあり、話し合っただすことの好作用を実感できた。
- ・DMOについて一定程度理解でき、各市町村・組織間のパイプ役としての役割、連携による相乗効果、情報共有や財源確保の重要性を学んだ。

「地方創生カレッジ in 津軽」

5. 成果スキーム図

現状

- ・人口減少が全国より早く進行
- ・観光入込は減少

対策

- ・観光による地域経済への波及効果拡大
津軽圏域を周遊・滞在したくなる過ごし方
国内外の観光地に負けないエリア
- ・そのために14市町村でDMOを設立

【官民連携講座開講】

設立に向けての課題を克服し、地域課題の解決策を学ぶ

12月
第1回

1月
第2回

2月
第3回

全93名参加

法人設立に向けての課題

- ・DMOの理解がバラバラ
- ・広範な14市町村でのDMO設立
- ・地域の後継人材が少ない

地域の課題

- ・豊富な観光資源がありながら、十分に活用できていない
- ・個人のニーズにあった津軽圏域ならではの観光コンテンツを提供できていない

【講座のテーマと 効果】

情報共有

相互理解

顔の見える
関係構築

財源

機能-
体制

観光地経営・
DMOの理解

課題
共有

経営
状況
把握

資源
把握

宿泊・
農泊

コン
セプト
策定

プラン
の
検討

【成果・共有できたこと】



お互いの顔を知ることができ一体感に変わったこと、この気持ちの変化が一番良かった

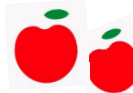
エリアと
しての一
体感

自ら汗を
かく人材
の発掘

立案の
ための
データの
重要性

「津軽らしさ」=
「豊かな
自然」

圏域へのイメージは同じようなものを持っていても出てくるコンセプトはグループごとにしっかり個性がでていて面白かった



今後はプレスト、実践からの反映等の長期的な活動にも取り組んでみたい

2020年4月、
14市町村で構成するDMO
「クラン・ピオニー津軽」の設立
(2020年度の取組イメージ)

情報共有・連携促進

圏域
調査

来訪
者の
把握

コン
セプト
ブラッシュ
アップ

外部
目線

地域
の独
自性

資源
調査
・発掘

ターゲット
・テーマ
深堀

津軽の
ストーリー